

◆teku-teku共同企画2017★川越博物館+まち歩き企画（活動記録+評価結果）◆

企 画◆展覧会「蔵・倉・くらー蔵造りと川越の町並みを知ろう」と川越のまちあるき

日 時◆2017年5月7日（日）10:00～18:00

コース◆＜午前の部＞川越駅周辺（川越駅自由通路+デッキ、駅前再開発事業、クレアモール等）～喜多院周辺（八幡通り、旧川越街道、料亭街、喜多院、成田山、門前町等）＜昼食＞～川越城址周辺（武家屋敷街、七曲り、三芳野神社、川越城址、本丸御殿等）

◆＜午後の部＞川越市立博物館＜常設展・企画展見学＞（解説員による説明）～城下北側一帯（氷川神社、ヤオコー美術館、新河岸川、東明寺等）～札の辻・本町一帯（路地、本町の長屋、長屋活用アトリエ・カフェ等）～中心街一帯（菓子屋横丁、一番街、大正浪漫通り、旧織物市場、小江戸蔵里等）

参加者■◎荒牧登多（コース選定・案内）+重永真理子（企画呼びかけ）

磯田尚子、井手幸人、上野朋子、大竹亮、折田茂穂、鎌原史英、栗原徹、小林正樹、高橋礼美那、田中努、椿真吾、藤井正男、古里実、溝辺正浩、横田宜明（計17名、◎コーディネイター）

企画主旨■川越市立博物館で第44回企画展「蔵・倉・くらー蔵造りと川越の町並みを知ろう」が開催されています。川越は蔵造りに代表される歴史的町並みを活かしたまちづくりで全国的にも知られていますが、川越の魅力を作り出している蔵造りとは？そして川越のまちはどのように造られてきたのかを知ることができます。

そこで、展覧会を見学し、1970年代の保存運動から時間をかけて形創られてきた、川越のまちを実際に歩いてみよう企画をいたしました。市民、行政、専門家の役割や、賑わいや活気を創り出し、地元産業の活性化につながる仕掛けにも注目したいと思います。今回の展覧会の企画に深く関わり、川越蔵の会の中心的役割を担ってこられた荒牧さんに案内していただきます。



企画展「蔵・倉・くら」が開催された川越市立博物館



川越駅自由通路で荒牧さんの説明を聞く

＜参加者の意見・評価＞

（注）評価は、A:非常に良い B:良い C:普通 D:良くない の4段階。

コメントは、評価の理由、感じたこと、考えたことなど。

1 ◆川越のまち全体（今回歩いた区域）について

評価:3.80 内訳:AAAABBBBBB

評価A●歴史的資産によって観光地として賑わっているが、それだけではなく、一般の商業ゾーンも充実しており、生活もしやすい街だと思う。

評価A●とにかく、どこを歩いても楽しい。歴史性や意外性もあり、生活感も、品格も、奥深さも。

評価A●川越の全体像がおぼろげながら見えてきて、奥が深いまちだと改めて思いました。

評価A●川越蔵づくりの周辺のまちの魅力を知ることができた。

評価B●観光地化したところ以外をたくさん見ることができて楽しかったです。

評価B●超一級の所を回ったわけではないが、今まで見たことがないところもあり興味深かった。

評価B●登録・保存されている歴史的建造物が多数散らばり、景観を豊かにしている。

評価B●歴史的資産が豊富で、これまで蔵の街並み～クレアモールの軸線上のイメージが強かったが、喜多院周辺、本丸御殿周辺など面としての川越のまちの理解が深まった。

評価B●川越駅から城址まで中心街の多様なエリアが広がり、いずれも歴史性を踏まえつつ、現在も賑わいや暮らしの場として機能しているように思えた。そういう意味で魅力的な街であるが、道路交通や高層マンション等がそれを損なっており、現代技術との共存共栄の方途を見出すことが大きな課題。

**2-1 ◆川越駅周辺（自由通路+デッキ、再開発事業、クレアモール等） 評価:2.56 内訳:BBBBBBBCC**

- 評価B●駅前再開発は細部に思入れがあって、形は変えても駅前の昔のまちを再生しているイメージ。  
駅周辺はいろいろと工夫されていて面白い。
- 評価B●東武とJRの駅を上手くまとめた自由通路や、再開発によってデッキと自由通路を設けて中心街への歩行者のスムーズな導入を可能としているのは素晴らしい。
- 評価B●駅前再開発ビルのアトレは完成後かなり経っているが、あまり古さを感じない。このビルに通抜け通路があることが、クレアモールの賑わいに寄与している。
- 評価B●アトレの内部の通路が真っ直ぐなのは周辺店舗対策というのは小さな驚き。
- 評価B●その時代の工夫が感じられて興味深い。特にデッキの通し方は歩く人の立場に立って計画されている。
- 評価B●街並みの魅力というより、賑わいの魅力が大きい。江戸-大正-昭和-と、それぞれの時代に触れられる川越のまちなかで、平成はモノ（建物）からとらえどころのない無い時代なのかなと考えた。
- 評価B●大資本、チェーン店などが多く、小さな起業が少ない。
- 評価C●クレアモールの商店街としての賑わいは評価できる。

**2-2 ◆喜多院周辺（八幡通り、旧川越街道、料亭街、喜多院、門前町等） 評価:4.33 内訳:AAAAAABBB**

- 評価A●八幡通りには若者向けの個性的な店舗が点在し、喜多院西側の料亭街はかつての趣が残っているなど、新しさと古さとが適度に混在しているのがいい。
- 評価A●八幡通は初めて歩きました。喜多院周辺も味わいのある建物が多く雰囲気も良い。
- 評価A●喜多院の森が遠くからも眺められ、ご利益にあずかれそう。
- 評価A●料亭街の古い建物が密度濃く残っていることに初めて見た。
- 評価A●門前町の背後は落ち着いた住宅地、静かな空間を歩いて現れた料亭街は意外性があった。昼食のお店も小さいが心地よかった。
- 評価B●今回川越の奥深さを最も感じられたゾーン。料亭、遊郭の名残、小路など、蔵だけではない川越を楽しむ一角として興味深い。
- 評価B●寺社、料理屋、リノベ店舗、伝統商店などが連なり、一見地味だがしみじみと味わいがある界隈。ただ、川越街道や喜多院近くバス通りではマンションや商業開発が進み、新旧せめぎ合っている。



喜多院付近の住宅地には料亭街の面影が残る



川越城址の遺構が住宅地の中に点在する

**2-3 ◆川越城址周辺（武家屋敷街、七曲り、三芳野神社、本丸御殿等） 評価:2.67 内訳:BBBBBBBCC**

- 評価B●川越の歴史を最も感じる場所。本丸御殿周辺の大きく育った樹木が心象的であった。
- 評価B●川越というと、蔵、長屋（町家）のイメージでしたが、お城、武家地、神社などとの関係（地形的にも歴史的にも）の中でまちを理解しないといけないと認識しました。
- 評価B●初めて歩きましたが、落ち着いた住宅地になっていました。城址というと天守閣城のイメージがあるので、川越に立派な本丸御殿が残されていることを知りませんでした。不明を恥じます…。
- 評価B●川越の地形の変化が味わえる。
- 評価B●歴史的な遺構や何かの跡が残っている。
- 評価B●川越城の痕跡が部分的には残っているが、全体としては土地利用がかなり変わっているので、川越城の全体像は想像しにくい。
- 評価C●（ほとんどの場所が、遠くから眺めただけなので、的確な良否の判断はできない。）



### 3◆川越市立博物館の常設展・企画展について

評価:4. 80 内訳:AAAAAAAAAB

評価A●川越の蔵造りの街並みについて、様々な角度からの展示がされており、とても面白かった。

評価A●川越のまち歩き好きには、どれだけ眺めていても飽きない。まちの全体模型を俯瞰して、徐々に一番街、織物市場、そして蔵づくりの実物大までズームアップしていく展示が楽しい。

評価A●蔵づくりのディテールから川越のまちづくりの歴史までたどれる素晴らしい企画でした。

評価A●地域の文化と歴史を知り、誇りが持てる。

評価A●川越の街の成り立ちを的確に理解できた。まつり会館よりもこちらの方が観光施設として充実していると思う。企画展では、蔵の町・東京を発見したり、川越を立体的に理解できたり、興味深かった。

評価A●歴史あるまちのすばらしさに、スタッフの皆さんが愛情と誇りを持っていることが伝わってくる展示でした。企画展では、江戸との関わりなどがよくわかりました。

評価A●その時代の工夫や、これは何といった素朴な疑問に丁寧に対応している。歴史や道具だけの博物館とは違って、楽しかった。

評価A●昔の市街地の模型など、いい展示品があった。学芸員や荒牧さんの説明がなくとも理解できるような展示の工夫があるととてもよかった。

評価A●川越のまちの歴史、大火の後の復興などわかりやすく説明していただきました。

評価B●模型を見ながらの丁寧な説明がとてもわかりやすかったです。

### 4-1◆城下北側一帯（氷川神社、ヤオコー美術館、新河岸川、東明寺等） 評価:3. 60 内訳:AAABBBBBBB

評価A●氷川神社から新河岸川へ抜けると、一気にのんびりした雰囲気になるギャップとともに、ヤオコー美術館が目に入った。小規模ですが思いのほか居心地のよい美術館でした。

評価A●氷川神社を抜けると新河岸川、そしてその向かいにヤオコー川越美術館という位置関係が良い。

評価A●ヤオコー美術館がほっとする休憩スポットに感じられました。

評価B●ヤオコー美術館は住宅地の中でも違和感の無いデザイン。

評価B●地元出身スーパーの美術館建設に加え、ぼた餅がラウンジでの定番である点が素晴らしい。

評価B●氷川神社は良かった。東明寺参道に面したマンション居住者への通告は考えさせられる事例だった。

評価B●今回初めて訪問しました。隠れた名所的で、季節の良いときは新河岸川の並木など、散歩道として楽しめるエリアではないでしょうか。

評価B●初めて歩いたが、珍しいものがたくさんあって、路上観察的な「B級まち歩き」が楽しめた。

評価B●普段見られない川越の風景でした。



城下北側の新河岸川沿いの散歩道を歩く



札の辻付近の路地に長屋が並ぶ懐かしい風景

### 4-2◆札の辻・本町一帯（路地、本町の長屋、長屋アトリエ・カフェ等） 評価:4. 00 内訳:AAAAAABBBBC

評価A●懐かしさが感じられる路地と長屋が織りなす空間を、アトリエやカフェとして活用することで新鮮さが加わり、街の魅力が増幅している。

評価A●個性的な小さなお店が増えている一帯。古い店も新しい店もこだわりと腰を据えた落ち着き感がある。

評価A●歴史的市街地の都市的な奥深さを感じるエリア。荒牧邸と長屋のリノベ、路地など、川越がより面的な広がりを持つ可能性が見えたように感じました。

評価A●これぞ本家川越！というエリア。長屋のリノベ活用がさらに進むと実に面白い界限になるだろう。

評価B●長屋を活用した設計事務所やカフェがそこそこにある川越のパワーを感じる。

評価B●長屋の活用、着物の振興など驚き。

評価A●「地味な活用」に底力を感じました。

評価A●長屋の魅力をさらに存分に味わいたい気持ちになる。

評価C●設計事務所以外、ここで活動している人の自己満足と感じた。

#### 4-3◆中心街一帯（菓子屋横丁、一番街、大正浪漫通り、小江戸蔵里等） 評価:3.20 内訳:AABBBBBBBC

評価A●あれだけの蔵造りの建物が保存したというのは大きな成果。

評価A●蔵の通りはやはり圧巻ですね

評価B●関東でこれだけ歴史的町並みが集積している町は貴重。蔵造り、看板建築、路地、再生建築などの多様性もあって楽しめる。ただ、あまりに観光地化しており、本来の老舗が消滅しないかが心配だ。

評価B●観光地としての風格が出てきました。全国観光チェーン店が多くならないか少し心配。

評価B●大正浪漫通り沿道の歴史的建物のファサードの復活、菓子屋横丁の復旧は頼もしかった。小江戸蔵里は、広場の使い等空間を生かせるかが大事と思いました。

評価B●いかにも観光地的になってしまった鏡山酒蔵（小江戸蔵里）には寂しさも感じるが、明治・大正・昭和の各蔵が活かされて利用されていることは素晴らしい。

評価B●きれいに保全されている。

評価B●中心街一帯は、街並みを生かした観光地としては全国でも有数。旧鏡山酒造を活用した小江戸蔵里は悪くはないが、川越のレベルの高さを考えると、もうひと工夫あってもよいのでは。

評価B●例えば、旧織物市場の活用などを通して、観光化に負けない「地元発信の文化」が生まれてほしい。

評価C●ちょっと観光地化が進みすぎた感じがしました。



復旧した菓子屋横丁は多くの人で賑わっている



旧鏡山酒蔵を活用した観光施設・小江戸蔵里

#### 5◆今回歩いた場所のうち、特に印象に残ったところ

クレアモール★いつ来ても賑わっており、やや狭い道路幅員が程よいスケール。

喜多院周辺の料亭建物★川越にも喜多院にも10回以上行っているが、初めて見た。

昼食場所の「栄」★ひっそりとある古民家隠れ家で、喜多院周辺の奥深さを感じさせる貴重な存在。

昼食場所の「栄」★さすが荒牧さん！こういうお店で食事して、通の川越を満喫できた。

武家屋敷街・七曲り★建て替えが進んでおり驚いた。

川越市立博物館★展示物が質・量ともに豊富で熱意を感じる。

川越市立博物館★蔵造りの細部から町並みまで堪能できる良い企画でした。

川越市立博物館★職人の手仕事とコミュニティが今も継承されていることが感じられた。

氷川神社★本殿の彫刻がなかなか見ものだった。

ヤオコー美術館★近所の人々が頻りに訪れても飽きないような展示もしくは庭・茶屋などがあれば。

ヤオコー美術館★小ぶりの美術館の良さを味わえる。

ヤオコー美術館★さりげなく存在して、中に入るとヒューマンスケール。

新河岸川及び周辺★市街地を囲むように流れており、桜の時期などはとても良さそう。

新河岸川及び周辺★並木のある散歩道として地域の環境資源になっており、川越の奥深さ、多彩さの1要素。

本町の長屋研究室★うまく使いこなしていた。町中に分散キャンパスができると面白い。

都市景観重要建築物★伝建地区以外で82件もの指定をしている。川越の景観資源の裾の広さを示している。





喜多院周辺にひっそり佇む当日の昼食場所「栄」



氷川神社北側に忽然と現れるヤオコー美術館

## 6 ■川越の町並み保存の成果と観光地化の現状を踏まえ、今後どのような街の姿を目指せばいいでしょうか？

- もはや川越を観光地でなくすることはできないが、観光地化が進展しすぎると街としての本来の魅力が失われるおそれがある。質の高い街を維持できる範囲での観光（例えば、観光エリアの限定、観光客の量の抑制など）について検討し、そのための施策を講じるべきだと思う。
- 広大な地域でたくさんの建物や町並みが残り、人を集めることに成功しているが、混雑しすぎ。大人が過ごせる場所もほしい。
- 歩行空間の充実が何よりでしょうか。あと、市内を周遊できるルートがもっと周知されるといいですね。
- 今回、普段歩かない喜多院周辺や本丸御殿周辺を歩き、川越の奥深さがわかりました。「小江戸川越みどころ90観光コース」を見ると今回訪問したゾーンも網羅されていますが、季節に応じた楽しみ方をPRすると、より川越の歴史や風土が楽しめるようになると思います。また、リノベや織物市場の活用など、小さな活動の積み重ねを感じることができました。これまで以上に多種多様な活動が展開されることを願っています。
- 中心部は観光地化が進んだことから、資本力のあるチェーン店が多くなっているのが残念でした。ただ、地域としての集客力がある分、周辺に個性的で魅力的な店舗が広がる余地があり、一定のゾーニング（場所別イメージ作り）みたいなことができれば楽しいのではないのでしょうか。武家屋敷街は和風の小物や着物レンタル、写真スタジオ等、本町一帯は長屋を利用したちょっと気が利いた手作り品を扱う店を中心とする等…。
- これまで通り、町民が中心になって保存し、活用していく活動。
- 川越の街並みは地元の商店街の取り組みとして始まったのですから、観光地化しても地元の方たちが楽しめる街であって欲しいと思います。「市民が川越の歴史を楽しむ空間を観光客も楽しむ」街を目指して欲しい。
- さらに歴史を生かしたまちづくりを期待したい。ただし、老舗商家や職人仕事、伝統行事、人々の暮らしの場であることが基本であり、過剰な観光地化によってほとんどが土産物屋になる状態は避けねばならない。
- お祭りとそれを支えるコミュニティがあつての川越、電線の張り方もお祭りの山車が通れるかどうかで決まるというローカル・ルールが存在にも表れているように、コミュニティを守ることではないかと思いました。

## 7 ■そのためのまちづくりとして、行政側は何をすべきで、市民側の活動は今後どうあるべきでしょうか？

- 行政と市民の合意により、歴史を活かすための交通規制（通過交通の排除）と建築規制（高層建築の抑制）の強化が必須。これは行政にしかできない。そのうえで行政は、市民活動を新たに展開する様々な場を用意すべき。さらには、伝統産業の振興も不可欠。老舗や職人がいなくなったら、街並みも祭りも意味がない。
- 行政側は、地元のルールに即して都市計画や建築行政を運用すること、市民の知恵を引き出し、コミュニティの独自の活動がしやすい環境をつくること。
- 地域単位で、観光地化すべきか否か、そのためにどうすべきかなど、住民と行政とで十分に意見交換をしていくことが重要だと思う。
- 市民に力がある場所柄、行政は関係者の調整などの後方支援にまわり、市民活動は歴史的保全に関心の高い新住民と経済的豊かさを求める旧住民とを結びつけながら、保全の方向に確実に進むことを望む。
- 行政は、歴史ある建物の市民による活用が進むよう支援（情報支援、改修助成、起業支援等）する。市民の側は、歴史ある建物の活用について、最初の一步は行政と連携し支援を受けても、その後の運営や事業は補助金に頼らず継続できるよう経営の視点を持つことが大切だと思う。
- 行政は市民が活動しやすいように支援を行う。資金及び場の提供。

- 地元地域発の様々なアイデアや工夫が生まれ、活性化されるための環境づくりが行政側の役割と思います。その上で、小さな組織では難しいリスクを伴うものに対しては、行政側の積極的な支援が必要と思います。
- 子どもたちに伝統的なすまい、まちづくりを伝えることを教育に取り入れる必要があると思う。



氷川神社の絵馬掛場



本町の長屋アトリエ

## 8 ■ 今回の企画全般に対する感想など

- 川越には何回も来ていますが、今回はあまり「川越らしい」ところには行かず、意外性があったとても面白いまち歩きでした。川越という街はまだ奥が深いようなので、これからも何度も来たいと思います。
- 普通には行かない場所を訪れたり、なかなか聞けない話を聞いたりすることができ、充実した企画だった。
- 2004年以来の訪問でした。蔵の街並みだけでなく、歴史を感じられる場所がたくさんあることに気が付き、季節の良いときに、ぶらりと歩いてさりげなく歴史や風土を感じることができる貴重なエリアだと思いました。観光もだんだん本物志向になりつつあるようですので、蔵の街並みや博物館を核に、歴史を楽しめる街として、ますます小さな工夫で溢れる街になってほしいと思いました。
- まちの魅力は人の魅力、ということを暫くぶりに切に痛感した一日でした。ありがとうございました。
- 川越の顔である蔵造りの街並みをあえて最後のコースにし、その周辺の街の魅力を見せていただき、川越の街を深堀する企画だったと思います。ご案内いただいた荒牧さん、企画いただいた重永さんに感謝です。川越は街の歴史的資源を活かした観光まちづくりの成功事例ですので、同様の歴史資源を抱えながらそれを活かしている全国の街を今後もリードいただくことを期待しています。
- 荒牧さんの企画展を見に行こう！というミニ企画から始まったのですが、せっかくだからまち歩きも、とか話がどんどん膨らんで、最終的には朝から晩まで荒牧さんにご案内いただくという大変贅沢な「川越の一日」となっていました。私自身は川越城址に行ったことがなく、「城下町に何回も来て城址を見ないとは！」と叱られてしまいました。今回、川越に対する視点がぐっと広がりました。大変ありがとうございました。
- 企画呼びかけ人からひとこと

都立大建築学科の同期のよしみで、荒牧さんにぜひまち歩きのご案内を、とお願いしました。「皆さんが見たいところを案内します」とのことだったのですが、当日は、ほとんどが川越まち歩きのリピーターという参加者の心を読み取ったかのように「川越を知り尽くした荒牧さんだからこそ」というコースをご案内いただきました。川越の全体像にふれ、奥深さを感じ、「蔵の町並みをここまで残せて活用できているのはなぜ？」という問いに、いろいろな角度から答えを見つけられたのではないかと思います。歴史的町並みは、歴史をつないできたコミュニティの活動があって生き続ける、お祭りがあって山車があって職人の「わざ」が生き続け、「わざ」がつながるから、蔵や町屋を活かし続けられる…そんなことを思った一日でした。参加者の感想の中であつた「子どもたちに伝統的なすまい、まちづくりを伝えることを教育に取り入れる」、共感しました。市立博物館の常設展では、展示に携わる方や解説員さんたちの熱意が伝わり、今まで見た「他の博物館との違い」が感じられました。企画展もすばらしく、すっかり堪能しました。荒牧さんには重ねてお礼申し上げます。(重永)



川越城址・本丸御殿前にて